

幼稚園 自立活動の6区分27項目と4つの柱の関連及び指導内容例 ①

障害を認識し、保有する聴覚を最大限に活用し、実態に応じたコミュニケーション手段を使って積極的・自主的に生きる力を養う。

下記の指導内容表のねらい及び特別支援学校学習指導要領に示された自立活動の内容の六区分27項目を基に、個々の幼児に必要な項目を選定し、それらを適宜組み合わせることによって具体的な指導内容を設定する。その際、指導内容表の「活動内容」「活動例」を参考にする。また、補聴年齢や構音器官の発達を考慮する。

幼稚園自立活動の指導目標および6区分27項目と柱の関連	ねらい	指導内容例
<p>保有する聴力を最大限に活用し、聴き取る力を高める。</p> <p>1 健康の保持 (3) 身体各部の状態の理解と養護</p> <p>2 心理的な安定 (3) 学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲</p> <p>4 環境の把握 (1) 保有する感覚の活用</p> <p>6 コミュニケーション (2) 言語の受容と表出 (3) 言語の形成と活用 (4) コミュニケーション手段の選択と活用</p> <p>聴能 学習指導要領解説より</p>	<p>・音のON・OFFに気づく。 ・生活音に気づく。 ・気づいた音の音源が分かる。 ・音や音声を聴く習慣が身に付く。 ・様々な音やことばに敏感になり、注意深く聴く。 ・自分の名前を聴き取る。 ・音の大小・長短が分かる。 ・音の高低が分かる。 ・友達や先生の名前を聴き分ける。 ・いくつかの違う種類の音を聴き分ける。 ・音節数が異なる単語を聴き分ける。 ・身の回りの物の名前を聴き分ける。 ・同形異音などの単語を聴き分ける。 ・合図の音を聴き行動できる。 ・2文節以上の文や細かい表現を聴き取る。 ・簡単な指示を聞き行動できる。 ・いくつかの指示を聴き行動できる。</p> <p>*聴力検査 ●1段階 ・聴力検査で大きめの音に明確に反応する。 ●2段階 ・聴力検査のルールを理解し、聞こえたとスイッチを押すなどができる。 ●3段階 ・聴力検査を一通り最後まで受ける。 ●4段階 ・標準純音聴力検査が確実にできる。</p>	<p>音遊びに関すること ・ON(音が聞こえたら)とOFF(音が止まったら)遊び ・楽器の音当て ・どこから聞こえる?(音源当て) ・数当て ・鳴き声当て ・効果音(生活音)当て</p> <p>呼名に関すること ・呼ばれたら返事をする。</p> <p>身近な単語の聴き分け、聴き取りに関すること</p> <p>短文の聴き分け、聴き取りに関すること</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>※補聴器・人工内耳点検(毎日) ※聴力測定(学期に1回) ※子どもの実態に応じて、三音節了解度検査または、単音節了解度検査を行う(年に1回)</p> </div>
<p>聴覚を活用し、言葉のリズムやイントネーション、発音に気を付けて話させ、日本語の音韻意識を育てる。</p> <p>2 心理的な安定 (3) 学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲</p> <p>4 環境の把握 (1) 保有する感覚の活用 (3) 感覚の補助及び代行手段の活用 (4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況把握</p> <p>5 身体の動き (3) 日常生活に必要な基本動作</p> <p>6 コミュニケーション (1) コミュニケーションの基礎的能力 (2) 言語の受容と表出 (3) 言語の形成と活用</p> <p>発音 学習指導要領解説より</p>	<p>●1段階 ・体を十分に動かして自然な明るい声が出る。 ・息、口形、舌などを使った遊びを十分楽しむ中で、それぞれに違いがあることに気づく。 ・声真似をする。 ・会話の中で母音や半母音に気を付けて話す。</p> <p>●2段階 ・声の大きさが大体使い分けられる。 ・意欲をもって声・息・口形・舌などを使った遊びや発音練習をする。 ・口形模倣に慣れる。 ・舌、声や息の模倣遊びができる。 ・言葉のリズムやイントネーションなどに気を付けて話そうとする。 ・会話の中で、清音、濁音、半濁音などに気を付けて話そうとする。</p> <p>●3段階 ・場に応じた声の大きさと話そうとする。 ・目的意識をもって、発音の練習に意欲的に取り組む。 ・口声模倣に慣れる。 ・言葉のリズムやイントネーションなどに気を付けて話す習慣がほぼ身につく。 ・会話の中で撥音、促音、拗音、長音、拗長音に気を付けて話す。</p>	<p>発音の基礎に関すること</p> <p>①声遊び ・明るい声 ・長く短く ・大きく小さく ・まっすぐに(揺れない声)</p> <p>②息遊び ・長く短く ・強く弱く ・あたたかい息 ・冷たい息</p> <p>③舌遊び ・ポーロつぶし ・出してひっこめて ・早く動かして</p> <p>④うがいをしよう</p> <p>⑤唇を動かそう</p> <p>⑥真似っこ遊び ・泣き声 ・様子を表す音</p> <p>発音・発語の練習に関すること ・母音の練習(母音三角図など) ・清音・濁音・半濁音・拗音・促音の練習 ・ことばの中での各音の練習 ・口声模倣での発音誘導・矯正 ・発音サインでの発音誘導・矯正</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>※子どもの実態に応じて発音チェックを行う(年に1回)</p> </div>

幼稚園 自立活動の6区分27項目と4つの柱の関連及び指導内容例 ②

幼稚園自立活動の指導目標および6区分27項目と柱の関連	ねらい	指導内容例
<p>ことばへの興味関心を育て、語彙の習得や言語概念の形成を図る。</p> <p>2 心理的な安定 (3) 学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲 3 人間関係の形成 (1) 他者とのかかわりの基礎 (2) 他者の意図や感情の理解 (3) 自己の理解と行動の調整 (4) 集団への参加の基礎 4 環境の把握 (1) 保有する感覚の活用 (2) 感覚や認知の特性についての理解と対応 (3) 感覚の補助及び代行手段の活用 (4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況把握 (5) 認知や行動の手がかりとなる概念の形成 6 コミュニケーション (1) コミュニケーションの基礎的能力 (2) 言語の受容と表出 (3) 言語の形成と活用 (4) コミュニケーション手段の選択と活用</p> <p>言語 学習指導要領解説より</p>	<p>●1段階 ・人、物、場所などの名称や動作、あいさつなど生活に必要なことばが分かる。 ・擬声語、擬態語のようなリズムカルな言葉を使って楽しむ。 ・自分の経験したことや思ったこと、考えたことなどを、身振りを交えて、知っている言葉をつなげて話す。 ・生活や遊びの中で、身近な人の支援を受けながら言葉のやり取りを楽しむ。</p> <p>●2段階 ・人、物、場所などの名称や動作、あいさつなど生活に必要なことばが分かり、すすんで使おうとする。 ・仲間集めやスリーヒントゲームなど、簡単なことばややりとりを楽しむ。 ・自分の経験したことや思ったこと、考えたことなどを、教師の支援を受けながら文をつないで話す。 ・教師の支援を受けながら、人の話を興味を持って聴いたり、相手に分かるように話したりする経験を重ね、伝え合うことを楽しむ。</p> <p>●3段階 ・日常生活に必要なことばがおおそ身につく、生活の中でほぼ適切に使うことができる。 ・しりとりやなぞなぞなど様々なことば遊びを楽しむ、言葉のきまりや面白さに気づく。 ・自分の経験したことや思ったこと、考えたことなどを脈絡(順序や因果関係など)にそって話す。 ・人との話を興味をもって注意して聴き、相手に分かるように話すことで、言葉で伝え合う喜びを味わう。</p>	<p>遊びを通したやりとりに関すること ・ふれあい遊び ・ままごと ・じゃんけんゲーム</p> <p>ものの名前を覚えることに関すること ・自分、家族、先生、友達の名前 ・生活の中で使うものの名前 ・色や形の名前 ・体の部位の名前 ・食べ物、動物、楽器、場所、土地の名前など</p> <p>いろいろなことばを覚えることに関すること ・オノマトペ(擬音語・擬態語) ・あいさつのことば ・天気、気象、季節に関することば ・年齢、誕生日(会)、成長に関することば ・色、形に関することば ・動きを表すことば ・時を表すことば ・気持ちや様子を表すことば ・くっつき・つなぎのことば ・こそあどことば ・呼応の表現(もし～たら、たぶん～だろう) ・やりもらいの表現 ・ていねいな言い方 ・文の暗唱</p> <p>質問に答えることに関すること ・だれ、どこ、なに ・いつ(昨日、今日、明日、週、月、年) ・どうして、なぜ、なんで ・どうやって、どんなふうに、どのように等</p> <p>個に応じたコミュニケーション手段の獲得に関する こと</p>
<p>自分の障害について大まかに知り、困ったときに相手に尋ねようとする態度を養う。</p> <p>1 健康の保持 (3) 身体各部位の状態の理解と養護 (4) 障害の特性の理解と生活環境の調整 2 心理的な安定 (1) 情緒の安定 (2) 状況の理解と変化への対応に関すること (3) 学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲 3 人間関係の形成 (3) 自己の理解と行動の調整 (4) 集団への参加の基礎 4 環境の把握 (2) 感覚や認知の特性への対応 (3) 感覚の補助及び代行手段の活用 (4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況把握 6 コミュニケーション (1) コミュニケーションの基礎的能力 (2) 言語の受容と表出 (3) 言語の形成と活用</p> <p>障害の認識 学習指導要領解説より</p>	<p>●1段階 ・補聴器や人工内耳をつけると「聴こえる」、はずすと「聴こえにくい」ことが分かる。 ・補聴器や人工内耳を大切に扱う。 ・絵や身振り等から情報を取り入れようとする。</p> <p>●2段階 ・聴こえないときに「聴こえない」と訴える。 ・補聴器や人工内耳の扱い方に慣れ、大切に扱う。 ・身振り、文字等からも情報を取り入れ意味をつかもうとする。</p> <p>●3段階 ・聴こえないときに、自分で電池の交換をしたり、スイッチを入れたりする。 ・補聴器や人工内耳の使い方によく慣れ、日常の管理や操作が一通りできる。 ・身振りや手話、指文字、文字等を使って情報を取り入れ、進んで使おうとする。 ・補聴器や人工内耳をつけている人とつけていない人に気づく。</p>	<p>聴覚障害に関すること ・聴こえること、聴こえないことの違い</p> <p>コミュニケーションの方法に関すること ・コミュニケーション手段について知る。</p> <p>補聴器、人工内耳の操作と管理に関すること ・自分でつけはずしをする。 ・補聴器、人工内耳チェックを担当と一緒にする。 ・ONとOFFができる。 ・電池の交換ができる。 ・聴こえないの不調を伝える。 ・汗や湿気への対処ができる。 ・保管の方法(プール時、就寝前時)</p> <p>聴者とのかかわりに関すること ・聴こえる友達との違い</p>
<p>年間教育時間週(週教育時間数)</p>	<p>78(2)</p>	

小学部 自立活動の6区分27項目と4つの柱の関連及び指導内容例 ①

聴覚活用の力を最大限に伸ばし、生活言語の質を高め学習言語への転換を図り、コミュニケーション活動を充実させていくとともにより良い書き言葉の習得を目指す。

特別支援学校学習指導要領に示された「自立活動の内容」6区分27項目に即して実態を把握するとともに、ろう教育の観点である本校独自の4つの柱も活用し、中心課題を導き出す。中心課題より個々の児童に必要な項目を選定し、それらを相互に関連付けて指導内容を設定する。その際、指導内容表の「指導内容」「活用例」を参考にして、個別の指導計画を作成する。

小学部自立活動の指導目標及び6区分27項目と柱の関連		指導内容例
聴能	聴覚情報を受容し、活用していく力を高める。	<p>管理に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人工内耳・補聴器 ・集団補聴システム <p>聞き取り・聞き分けに関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動物の鳴き声や環境音(CD) ・音節 ・単語 ・文
	<p>学習指導要領解説より</p> <p>1 健康の保持 (3)身体各部の状態の理解と養護</p> <p>2 心理的な安定 (3)学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲</p> <p>4 環境の把握 (1)保有する感覚の活用 (2)感覚や認知の特性への対応 (3)感覚の補助及び代行手段の活用 (5)認知や行動の手掛かりとなる概念の形成</p> <p>6 コミュニケーション (1)コミュニケーションの基礎的能力 (2)言語の受容と表出 (3)言語の形成と活用</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>実態把握のための諸検査等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聴力測定（学期に一回） ・単音節了解度検査 ・3音節了解度検査 </div>
発音	聴力を活用し、正しく言わせたり、発音要領を知らせたりして日本語の音韻意識を育てる。	<p>息遊び・舌遊びに関すること</p> <p>口形と舌の安定に関すること</p> <p>発音練習に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・清音・濁音・半濁音の練習 ・撥音・促音・拗音・長音・拗長音の練習 ・単語や文での発音・発語の練習 ・誤音矯正 <p>リズム・テンポ・アクセント・イントネーションに関すること</p> <p>音声模倣（単語・文）に関すること</p>
	<p>学習指導要領解説より</p> <p>1 健康の保持 (3)身体各部の状態の理解と養護</p> <p>2 心理的な安定 (3)学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲</p> <p>4 環境の把握 (1)保有する感覚の活用 (3)感覚の補助及び代行手段の活用 (5)認知や行動の手掛かりとなる概念の形成</p> <p>6 コミュニケーション (1)コミュニケーションの基礎的能力 (2)言語の受容と表出 (3)言語の形成と活用</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>実態把握のための諸検査等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発音明瞭度検査 </div>

小学部 自立活動の6区分27項目と4つの柱の関連及び指導内容例 ②

小学部自立活動の指導目標及び6区分27項目と柱の関連		指導内容例
言語	<p>語彙力や文法力を高め、日本語の習得に努める。</p>	
	<p>2 心理的な安定 (3)学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲</p> <p>3 人間関係の形成 (1)他者とのかかわりの基礎</p> <p>4 環境の把握 (1)保有する感覚の活用 (2)感覚や認知の特性についての理解と対応 (3)感覚の補助及び代行手段の活用 (5)認知や行動の手掛かりとなる概念の形成</p> <p>6 コミュニケーション (1)コミュニケーションの基礎的能力 (2)言語の受容と表出 (3)言語の形成と活用 (4)コミュニケーション手段の選択と活用 (5)状況に応じたコミュニケーション</p>	<p>身近な事柄に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近なものの名前（身体、食べ物、動物、魚 など） ・トピックス ・日記・作文 <p>言葉の決まりに関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文法事項 <p>文の読み取り・音読に関すること</p> <p>お話作りに関すること</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>実態把握のための諸検査等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PVT-R絵画語彙発達検査 <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>※必要に応じて使用する検査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・J.coss日本語理解テスト・動詞テスト・文法テスト </div>
障害認識	<p>補聴器や人工内耳の管理の仕方を知る。また、自分の聞こえの状態を理解し、改善しようとする意欲を高める。</p>	<p>聴者との関わりに関すること</p>
	<p>1 健康の保持 (3)身体各部の状態の理解と養護 (4)障害の特性の理解と生活環境の調整</p> <p>2 心理的な安定 (1)情緒の安定 (3)学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲</p> <p>3 人間関係の形成 (1)他者とのかかわりの基礎 (2)他者の意図や感情の理解 (3)自己の理解と行動の調整 (4)集団への参加の基礎</p> <p>4 環境の把握 (2)感覚や認知の特性についての理解と対応 (3)感覚の補助及び代行手段の活用 (4)感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動</p> <p>6 コミュニケーション (1)コミュニケーションの基礎的能力 (4)コミュニケーション手段の選択と活用 (5)状況に応じたコミュニケーション</p>	<p>聴覚活用に關すること</p> <p>コミュニケーションの方法に關すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指文字や手話、筆談、口話など <p>聴覚障害に關すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オーディオグラムの見方 <p>福祉制度に關すること</p>

中学部 自立活動の6区分27項目と3つの柱の関連及び指導内容例

障害を認識し、保有する聴覚を最大限に活用し、実態に応じたコミュニケーション手段を使って積極的・自主的に生きる力を養う。

特別支援学校学習指導要領に示された「自立活動の内容」6区分27項目に即して実態を把握するとともに、ろう教育の観点である本校独自の3つの柱も活用し、中心課題を導き出す。中心課題より個々の生徒に必要な項目を選定し、それらを相互に関連付けて指導内容を設定する。その際、指導内容表の「指導内容」「活用例」を参考にして、個別の指導計画を作成する。

中学部自立活動の指導目標および6区分27項目と柱の関連		指導内容例
コミュニケーション	よく聞き、考え、積極的に話そうとする姿勢と、思考するための語彙力、適切で豊かな表現力を身に付け、円滑な人間関係を築いていく力を育てる。	
	<p>2 心理的な安定</p> <p>(1)情緒の安定に関すること</p> <p>(2)状況の理解と変化への対応に関すること</p> <p>3 人間関係の形成</p> <p>(1)他者とのかかわりの基礎に関すること</p> <p>(2)他者の意図や感情の理解に関すること</p> <p>(4)集団への参加の基礎に関すること</p> <p>4 環境の把握</p> <p>(1)保有する感覚の活用に関すること</p> <p>(2)感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること</p> <p>(3)感覚の補助及び代行手段の活用に関すること</p> <p>6 コミュニケーション</p> <p>(1)コミュニケーションの基礎的能力に関すること</p> <p>(2)言語の受容と表出に関すること</p> <p>(3)感覚の補助及び代行手段の活用に関すること言語の形成にと活用に関すること</p> <p>(4)コミュニケーション手段の選択と活用に関すること</p> <p>(5)状況に応じたコミュニケーションに関すること</p>	<p>聞く態度や話す姿勢に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表や話し合いの中での態度や姿勢 ・表情、リズム、抑揚 <p>音声言語に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語の語彙の習得 ・日本語の基本文法 ・文章表現 <p>手指言語に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手話語彙の習得 ・手話の基本文法 <p>書記言語に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日記指導 ・作文指導 <p>他者とのコミュニケーションに関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶や敬語 ・コミュニケーション手段の選択 ・場に応じたコミュニケーション
障害認識	自分の聞こえの状態や補聴器及び人工内耳に関する正しい知識を学び、適切に管理し活用するとともに、自己の障害を肯定的に受け止め、障害による困難を改善・克服していこうとする姿勢を育てる。	
	<p>1 健康の保持</p> <p>(2)病気の状態の理解と生活管理に関すること</p> <p>(3)身体各部の状態の理解と養護に関すること</p> <p>(4)障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること</p> <p>2 心理的な安定</p> <p>(3)障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること</p> <p>3 人間関係の形成</p> <p>(3)自己の理解と行動の調整に関すること</p> <p>4 環境の把握</p> <p>(1)保有する感覚の活用に関すること</p> <p>(2)感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること</p> <p>(3)感覚の補助及び代行手段の活用に関すること</p> <p>(4)感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること</p> <p>(5)認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること</p> <p>5 身体の動き</p> <p>(2)姿勢の保持と運動・同左の補助手段の活用に関すること</p> <p>6 コミュニケーション</p> <p>(4)コミュニケーション手段の選択と活用に関すること</p> <p>(5)状況に応じたコミュニケーションに関すること</p>	<p>聴覚障害の理解に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聴覚障害に関する基本的な知識 ・補聴器や人工内耳のしくみと管理 ・補聴援助システムの必要性と活用 <p>自己の障害に対する理解に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自身の障害に対する肯定的な捉え ・保有聴力の活用 ・自己の行動とその理解 ・手話に対する受け止め方 <p>聴覚障害者(ろう者)の生活と文化に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの聴覚障害者(ろう者) ・各界で活躍する聴覚障害者(ろう者) ・ろう文化について ・聴覚障害者(ろう者)の歴史
社会自立	身の回りの環境を把握し、社会参加に向けた情報の収集及び活用法などを知り、主体的に行動する力を育てる。	
	<p>1 健康の保持</p> <p>(1)生活のリズムや生活習慣の形成に関すること</p> <p>(2)病気の状態の理解と生活管理に関すること</p> <p>(3)身体各部の状態の理解と養護に関すること</p> <p>(4)障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること</p> <p>(5)健康状態の維持・改善に関すること</p> <p>2 心理的な安定</p> <p>(2)状況の理解と変化への対応に関すること</p> <p>(3)障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること</p> <p>3 人間関係の形成</p> <p>(2)他者の意図や感情の理解に関すること</p> <p>(3)自己の理解と行動の調整に関すること</p> <p>(4)集団への参加の基礎に関すること</p> <p>4 環境の把握</p> <p>(2)感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること</p> <p>(4)感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること</p> <p>5 身体の動き</p> <p>(5)作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること</p> <p>6 コミュニケーション</p> <p>(4)コミュニケーション手段の選択と活用に関すること</p> <p>(5)状況に応じたコミュニケーションに関すること</p>	<p>自立した生活に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身だしなみや整理整頓 ・生活リズムと生活習慣 ・障害に応じた体調管理 ・予定表の作成や活用 ・メモの活用 ・新聞やICT機器などを使った情報収集 ・アプリの活用 <p>他者とのかかわり方に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルスキルトレーニング ・他者との会話のやり取り ・衝動に対する対応 ・集団への参加とルール ・FAX, メールや手紙の書き方 ・マナー、敬語 <p>福祉制度に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体障害者手帳の活用 ・活用できる福祉制度

高等部 自立活動の6区分27項目と3つの柱の関連及び指導内容例（案）

聴覚障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善するため、コミュニケーション・障害認識・社会自立について指導目標を設定し、これらの達成を目指す。

ろう教育の観点である本校独自の3つの柱を使って実態を把握するとともに、特別支援学校学習指導要領に示された「自立活動の内容」6区分27項目に即して整理し、中心課題を導き出す。中心課題より個々の生徒に必要な項目を選定し、それらを相互に関連付けて指導内容を設定する。その際、「指導内容例」を参考にして、個別の指導計画を作成する。

高等部自立活動の指導目標および6区分27項目と柱の関連		指導内容例
コミュニケーション	<p>多様な感覚や手段を活用しながら情報や相手の意図を理解し、状況に応じて自分の考えを適切に伝える力を育てる。</p> <p>1 健康の保持 (4)障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること</p> <p>2 心理的な安定 (3)障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること</p> <p>3 人間関係の形成 (2)他者の意図や感情の理解に関すること</p> <p>4 環境の把握 (4)感覚を統合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること</p> <p>6 コミュニケーション (1)コミュニケーションの基礎的能力に関すること (2)言語の受容と表出に関すること (3)感覚の補助及び代行手段の活用に関すること言語の形成にと活用に関すること (4)コミュニケーション手段の選択と活用に関すること (5)状況に応じたコミュニケーションに関すること</p>	<p>コミュニケーションの前提に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の聴力と聞こえ方 ・どんな困難さがあるか ・環境や騒音の影響について ・聞く態度、視線、表情 ・障害特性の説明と支援の依頼 ・日本語の力（語彙、文法、慣用句等） ・状況や相手に応じたコミュニケーション手段の判断と選択 <p>コミュニケーションのスキルに関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音声言語（聴覚活用、読話、発音等） ・書記言語（文章読解、作文、筆談等） ・手指言語（手話・指文字の読み取りと表現） ・その他（ICT等コミュニケーションツールの活用、挨拶、言葉使い、敬語、雑談力等） ・自分の理解に誤りがないかの確認 ・相手に適切に伝わったかの確認
	<p>自分の障害や保有聴覚の有効活用について理解を深め、社会生活上の困難を知り、自ら改善・行動する態度及び生活習慣を育てる。</p> <p>1 健康の保持 (2)病気の状態の理解と生活管理に関すること (3)身体各部の状態の理解と養護に関すること (4)障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること</p> <p>2 心理的な安定 (3)障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること</p> <p>3 人間関係の形成 (2)他者の意図や感情の理解に関すること</p> <p>4 環境の把握 (1)保有する感覚の活用に関すること (3)感覚の補助及び代行手段の活用に関すること (4)感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること (5)認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること</p> <p>6 コミュニケーション (4)コミュニケーション手段の選択と活用に関すること (5)状況に応じたコミュニケーションに関すること</p>	<p>聴覚障害の理解に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・耳のしくみと聴覚障害の基礎知識 ・補装具(補聴器や人工内耳)のしくみと管理 ・補聴援助システムやICT機器の活用 <p>自己の理解に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の聴力と聞こえ方(みみBOOKの活用) ・保有聴覚の有効活用(補装具の管理) ・自分と他の聴覚障害者との違い ・学習上又は生活上の困難さ ・いろいろなコミュニケーション手段 ・他者から見た自分 ・適切な行動や生活習慣(自己コントロール) <p>聴覚障害者(ろう者)の歴史や文化に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聴覚障害者(ろう者)の歴史 ・ろう文化 ・各界で活躍する聴覚障害者(ろう者)
障害認識	<p>聞こえる人が中心となっている社会において、自立した生活を送るために必要な知識やスキルを身に付け、社会の一員としてよりよく生きる力を育てる。</p> <p>1 健康の保持 (1)生活のリズムや生活習慣の形成に関すること (2)病気の状態の理解と生活管理に関すること (4)障害の特性に理解と生活環境の調整に関すること</p> <p>2 心理的な安定 (2)状況の理解と変化への対応に関すること (3)障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること</p> <p>3 人間関係の形成 (2)他者の意図や感情の理解に関すること (3)自己の理解と行動の調整に関すること (4)集団への参加の基礎に関すること</p> <p>4 環境の把握 (2)感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること (4)感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること</p> <p>5 身体の動き (5)作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること</p> <p>6 コミュニケーション (4)コミュニケーション手段の選択と活用に関すること (5)状況に応じたコミュニケーションに関すること</p>	<p>自立した生活に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・衣食住を整える ・タイムマネジメント、スケジュール管理 ・病気の予防や通院時の対応 ・新聞、インターネット等を使った情報収集 ・災害対応のための機器の活用やコミュニケーション ・メモの活用、メール等連絡手段の活用 ・社会生活に必要な知識(常識)やスキル(冠婚葬祭、マナー、「暗黙の了解」等) <p>社会参加に必要なふるまいに関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職場における自己理解、自己の客観視 ・社会人として必要な知識や礼儀 ・他者との適切な距離感(SST) ・働きやすい職場にするために <p>福祉制度に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体障害者手帳の管理と活用 ・福祉サービスと申請方法
	<p>1 健康の保持 (1)生活のリズムや生活習慣の形成に関すること (2)病気の状態の理解と生活管理に関すること (4)障害の特性に理解と生活環境の調整に関すること</p> <p>2 心理的な安定 (2)状況の理解と変化への対応に関すること (3)障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること</p> <p>3 人間関係の形成 (2)他者の意図や感情の理解に関すること (3)自己の理解と行動の調整に関すること (4)集団への参加の基礎に関すること</p> <p>4 環境の把握 (2)感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること (4)感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること</p> <p>5 身体の動き (5)作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること</p> <p>6 コミュニケーション (4)コミュニケーション手段の選択と活用に関すること (5)状況に応じたコミュニケーションに関すること</p>	<p>自立した生活に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・衣食住を整える ・タイムマネジメント、スケジュール管理 ・病気の予防や通院時の対応 ・新聞、インターネット等を使った情報収集 ・災害対応のための機器の活用やコミュニケーション ・メモの活用、メール等連絡手段の活用 ・社会生活に必要な知識(常識)やスキル(冠婚葬祭、マナー、「暗黙の了解」等) <p>社会参加に必要なふるまいに関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職場における自己理解、自己の客観視 ・社会人として必要な知識や礼儀 ・他者との適切な距離感(SST) ・働きやすい職場にするために <p>福祉制度に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体障害者手帳の管理と活用 ・福祉サービスと申請方法
社会自立	<p>1 健康の保持 (1)生活のリズムや生活習慣の形成に関すること (2)病気の状態の理解と生活管理に関すること (4)障害の特性に理解と生活環境の調整に関すること</p> <p>2 心理的な安定 (2)状況の理解と変化への対応に関すること (3)障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること</p> <p>3 人間関係の形成 (2)他者の意図や感情の理解に関すること (3)自己の理解と行動の調整に関すること (4)集団への参加の基礎に関すること</p> <p>4 環境の把握 (2)感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること (4)感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること</p> <p>5 身体の動き (5)作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること</p> <p>6 コミュニケーション (4)コミュニケーション手段の選択と活用に関すること (5)状況に応じたコミュニケーションに関すること</p>	<p>自立した生活に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・衣食住を整える ・タイムマネジメント、スケジュール管理 ・病気の予防や通院時の対応 ・新聞、インターネット等を使った情報収集 ・災害対応のための機器の活用やコミュニケーション ・メモの活用、メール等連絡手段の活用 ・社会生活に必要な知識(常識)やスキル(冠婚葬祭、マナー、「暗黙の了解」等) <p>社会参加に必要なふるまいに関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職場における自己理解、自己の客観視 ・社会人として必要な知識や礼儀 ・他者との適切な距離感(SST) ・働きやすい職場にするために <p>福祉制度に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体障害者手帳の管理と活用 ・福祉サービスと申請方法